



理系のポテンシャルも ミエル化!?

あなたにもミエル化?

—世間のなりたちを工学の視点から—

喜多 充成 著

取材協力：株式会社構造計画研究所

幻冬舎メディアコンサルティング

輸出用自動車を一番効率的に貨物船に積み込むにはどうすればいいか、商品モニターからウソ偽りのない評価を得るためにはどうすべきだろうか――。

こうした答えがあるようでないような問い掛けに対して、「工学的なアプローチ」で取り組んだ事例をまとめたのが本書である。自動車の積み込みにはオペレーターズ・リサーチという理系の学問の知見に基づき、モデルを使ったシミュレーションと過去の積み込み例とを組み合わせ、最適解を速やかに導き出す。商品モニター調査には心電図で使う類の電極を貼り付けて脳の反応を測定し、モニターの本書ではそうした工学的なアプローチにより、解がありそうで見えていなかった課題に対して、「目にミエル解」

を提示することに成功した事例が紹介されている。

一つひとつの事例が興味深いだけに、どのように解を導き出したのかディテールをもっと詳しく知りたいという思いも湧いてくる。また「そんなこと聞かれても曖昧で分からないよ」と言いたくなるような課題に対して、ある時はシミュレーションを駆使し、またある時は実験的な手法を取り入れ、ミエル解を導き出していることに驚きを覚えた。

「ビジネスシーンでは理系の研究室で学んだような深い内容は使えない」なんて話を耳にすることもあるが、本書を通して理系で学んだ工学的なアプローチがさまざまなシーンで有益であることに気づかされる。シミュレーションを活用した問題解決の事例紹介が多く、

シミュレーションという手法の適用範囲の広さも印象に残るが、モニターの反応を電極で測る手法を用いることによって「ミエル解」を導き出すように、学生時代に専門的に学んだ論理的思考力、数学への強さなどを工学的アプローチによって存分に発揮できる仕事があることを実感できるだろう。

これから社会に出ていく理系の学生に「学生時代の研究内容をいつかどこかで直接活かせるのではないか」とそんな期待を抱かせる一冊である。

この書籍を先着30名様にプレゼント!
詳細は理系ナビWebをご覧ください。
www.rikeinavi.com/11/contens/pre/

